

中学生の「総合的な学習」における教師の指導・援助に関する研究

学習動機とその関連要因に焦点をあてて

東京都大田区立東調布中学校教諭 田村修一

本研究の目的は、「総合的な学習」に対する中学生の学習動機の変化と、それに関連している要因を明らかにすることであった。中学生202名を対象に、「総合的な学習」の試行プログラムの実施前と実施後に、質問紙による調査を行った。その結果、試行プログラムの実施前より実施後の方が、学習動機の得点が向上した。また、「実地調査」「体験学習」「作品作り」の楽しさが、「学習動機」と大きく関連していることが示された。それらの結果に基づいて、教師が児童生徒に対して、「総合的な学習」の指導や援助をどのように行うことが望ましいかを考察した。

キーワード：総合的な学習，教師，指導・援助サービス，学習動機，学校心理学

問題と目的

新学習指導要領のもと、平成14年度より中学校において「総合的な学習」が実施されることになった。実施までの数年間、文部省指定の研究開発学校などにおいて「総合的な学習」の活発な取り組みがあり、現在それらの学校の実践事例が数多く報告されている（文部省，1999）。また、その他の多くの学校でも、本格的な実施を前に、教師や生徒が新しい教育課程にスムーズに移行できるように、「総合的な学習」が様々な形で試行されてきた。

そもそも「総合的な学習」が新教育課程に設けられた背景は、何であろうか。まず、現代の子ども達が、かつての子ども達に比べ、膨大な「情報量」の中で生活するようになり、子供を取り巻く社会環境が大きく変化したことがあげられる（滝，1999）。また、子ども達にとって、最も身近な教育環境である家庭の教育や文化が、これまでの学校教育や学校文化と大きくズレてきたという現実もある（山田，1985）。さらに、「自己感情の強さ」や「社会性の未熟さ」など、子ども自身の育ちの変化もある（滝，1999）。このような事情を背景とする今回の教育課程の大幅な変更は、現代の子ども達の「発達課題」や子ども達を取り巻く教育環境の変化に伴う学校教育における「教育課題」の見直しに他ならない。

そのような児童生徒の実態をふまえ、「総合的な学習」では、変化の激しい時代を生き抜くための「生きる力」の育成を目指している。具体的には、自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力、情報の集め方・調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方、自己の生き方についての自覚などの育成を目標としている。

この場合の「自ら」の意味するところは、学習の主体者が生徒自身であるということであり、生徒の学習を教師がただ放任しているという意味ではない。生徒が、充実し効果的な学習を行うためには、「課題設定」や「課題の追究」、そして「学習のまとめ」のそれぞれの段階で、教師の適切な指導や援助が必要になってくる。

ところで近年、変化の激しい教育現場において、学校心理学が注目されている。学校心理学とは、「学校における児童生徒に対する心理教育的援助サービスの理論と実践を支えるための学問体系」（石隈，1999）のことである。学校心理学における児童生徒に対する具体的な援助領域には、学習面、心理・社会面、進路面、健康面の4つがある。そして、とくに学習面における援助を重視している点が、カウンセリング心理学や臨床心理学などとは異なる点である。学習面の具体的な援助内容としては、子どもの学習面における問題

解決, 学習意欲の促進, 子どもの学習状況の理解, 学習スキルの獲得, 学習計画の立案の援助, 基礎学力の獲得などがある(石隈, 1999)。これらの学校心理学でとらえる指導・援助の内容や目標は, まさしく「総合的な学習」における学習内容や学習目標と一致している。

「総合的な学習」の本格的な実施を目前に控えた試行期において, 教師の第1の課題は, 適切なカリキュラムを作成することであった。具体的には, 児童生徒の実態把握, それらを踏まえた「発達課題」や「教育課題」の確認, それをもとにした各校独自の「総合的な学習」のねらいの設定や学習内容の計画などであった。試行期の「総合的な学習」の成果をアセスメントし, そこで得られた知見を, 本格的な実施に向けての「総合的な学習」のカリキュラム作りに生かすことは, 意義があると考えた。

また, 学習が成立するためには, 児童生徒の学習に対する「動機づけ」が必要である(デューイ, 1975)。本格的な実施に向けて「総合的な学習」に対する児童生徒の「動機づけ」を高めることは, 試行期の教師に課せられた第2の課題であったと考える。学習に対する「動機づけ」については, 学習を開始するときの「学習動機」と, 学習を開始し継続するプロセス全体を包括する「学習動機づけ」に分けられる(浅野, 2002)。

これまで, 「学習動機」や「学習動機づけ」を高めるための有効な教師の援助方法については, 教育学や教育心理学の分野において様々な提言がなされている。市川(1993)は, 認知心理学の知見を応用した「認知カウンセリング」の実践を通し, 各個人に応じた学習方略を助言し, 学習に対し苦手意識があったり, 学習意欲の欠如している児童生徒の学習面での指導・援助に効果を上げている。

鹿毛(1996)は, 「内発的動機づけ」と「教育評価」の関連について研究し, 指導・援助者が, 学習者に対し学習内容の到達度の情報をフィードバックすることの重要性, 自己評価による到達度評価が, とくに学習意欲の低い学習者の「内発的動機づけ」を高めたことを報告している。

桜井(1999)は, 児童生徒の自主的な学習活動を援助するために, 教師がリーダーシップを発揮することの重要性を指摘し, 子ども達は自発的な学習活動を行うことによって, 自身の有能感・自己決定感・内

発的な学習意欲も高まることを指摘している。

倉光(2000)は, 臨床心理学や心理療法の原理を教育に応用し, 学習に対する動機づけを向上させる要因について研究を行い, 「優越欲求の傷つき」によって動機づけが低下している場合は, 学習場面に競争事態を持ち込まない工夫をすること, 学習者自身が学習課題を自己決定し, それに挑戦し, その達成を確認することができる状況をつくることの重要性を指摘している。さらに, ポジティブなフィードバックや, 教える体験などが, 学習に対する「内発的動機づけ」を喚起することを報告している。

山口(2001)は, 教師の4種類(情緒的・情動的・評価的・道具的)のサポートが児童の学習意欲を高めることを報告している。このように, 学習効果を高める意味からも, 児童生徒の学習に対する意欲や動機づけに関する研究を行うことは大変意義がある。しかし, これまで「総合的な学習」に対する児童生徒の「学習動機」と, それに結びつく要因について明らかにした研究は, ほとんど見あたらない。そこで, 「総合的な学習」に対する「学習動機」の研究を行い, そこで得られた知見を用いて, 教師の効果的な指導・援助について検討することは, 大いに意義があると考えられる。

本研究では児童生徒の「学習動機」を「学習を開始するときの学習動機」(浅野, 2002)と定義する。そして, 試行期の「総合的な学習(20時間)」の授業実践の前後の場面で質問紙調査を行い, 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」がどのように変化するか, また, 生徒の「学習動機」に強く関連する要因は何か, を明らかにすることを目的とする。

具体的には, 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」の変化の分析, 「総合的な学習」への取り組みに対する生徒の「自己評価」の分析, 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」に強く関連する要因についての探索的な検討である。そして, それらの調査結果にもとづいて, 中学生の「総合的な学習」において, 教師がどのような指導・援助サービスを行うことが望ましいかを考察する。

方法

1 調査対象生徒

東京都内の区立中学1年生210名(6学級)。

2 調査時期

(第1回目)2000年9月6日

(第2回目)2000年9月29日

3 調査内容と手続き

(1) 授業実践の前に、これから試行される「総合的な学習」に対する「学習動機」について、質問紙(これから今年度の「総合的な学習」が始まります。次の1~5の中で、今のあなたの気持ちに、一番あてはまるものに、をつけてください。)を用いて、5件法(「5:大いに学びたい」「4:かなり学びたい」「3:どちらでもない」「2:あまり学びたくない」「1:まったく学びたくない)で回答を求めた。

(2) 「総合的な学習(20時間)」の授業実践(表1)

(3) 授業実践の後で、次年度から本格的に実施される「総合的な学習」に対する「学習動機」について、質問紙(来年度から本格的に「総合的な学習」が実施されます。今年度の「総合的な学習」を終えた今、来年度の「総合的な学習」について、次の1~5の中で、今のあなたの気持ちに、一番あてはまるものに、をつけてください。)を用いて、5件法(「5:大いに学びたい」「4:かなり学びたい」「3:どちらでもない」「2:あまり学びたくない」「1:まったく学びたくない)で回答を求めた。また、今回試行された「総合的な学習」に対する自分の取り組みについて、21項目の自己評価尺度(「学習課題の設定(4項目)」「課題の追究(9項目)」「コミュニケーション・スキル演習(4項目)」「学習のまとめ(4項目)」)を用いて、生徒に5件法(「5:よくあてはまる」「4:少しあてはまる」「3:どちらでもない」「2:あまりあてはまらない」「1:まったくあてはまらない)で回答させた(表2)。

結 果

1 授業実践の前後における「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」得点の比較

今回試行される「総合的な学習(20時間)」に対する生徒の「学習動機」を測定するために、授業実践前に1年生210名を対象に質問紙調査を行った。その結果、202名の生徒から回答があり、5件法の尺度に1点(まったく学びたくない)~5点(大いに学びたい)

を割り付けたところ、平均値が3.19、標準偏差は1.01という結果であった。そして、試行授業の実践の後に、次年度から本格的に実施される「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」を測定するために、上記の同一生徒ら(1年生210名)を対象に、質問紙調査を行った。その結果、202名の生徒から回答があり、算出された平均値は4.11、標準偏差は0.94という結果が得られた。これら試行授業前と後の「総合的な学習」に対する「学習動機」得点の平均値をt検定を用いて比較した結果、試行授業後の「総合的な学習」に対する「学習動機」得点が、試行授業前に比べ、有意に高かった($t=10.03$, $df=201$, $p<.001$)。

2 「総合的な学習」に対する自己評価尺度

「総合的な学習」に対する自己評価尺度は、試行される「総合的な学習(20時間)」の授業の流れに沿って、21項目の質問が作成された。そして、尺度の内的整合性を調べるために、全質問項目(21項目)のクロンバックの係数を算出したところ、.80であった。また、下位尺度ごとのクロンバックの係数は、それぞれ「学習課題の設定(4項目)」は.62、「課題の追究(9項目)」は.56、「コミュニケーション・スキル演習(4項目)」は.73、「学習のまとめ(4項目)」は.76であった。これらの結果から、ある程度の信頼性が確認された。

3 「総合的な学習」に対する生徒の自己評価

「総合的な学習(20時間)」の試行授業に対する生徒自身の取り組みについて自己評価させた(表2)。5件法の尺度に1点(まったくあてはまらない)~5点(よくあてはまる)を割り付け、平均値を算出した結果、4.0以上を示している生徒の自己評価が比較的高かった項目は、「4)見学場所にふさわしい、学習テーマだった(4.02)」、「11)見たかったものを見学できた(4.11)」、「12)聞きたかったことをインタビューで聞けた(4.31)」、「13)事業所の訪問は、楽しかった(4.33)」、「14)コミュニケーション・スキル演習に積極的に参加した(4.26)」、「15)コミュニケーション・スキル演習は楽しかった(4.27)」、「16)『聞くこと』・『話すこと』のむずかしさを感じた(4.32)」であった。

これらの結果から、今回の「総合的な学習(20時間)」

表1 「総合的な学習」試行プログラム <対象 中学1年生>

1) ねらい

- ①「学習課題の設定と課題解決の方法」, および「実地調査 (フィールド・ワーク) の仕方」を体験を通し身につける。
- ②グループ単位での学習を通して, 班員同士が協力すること, 自分自身をコントロールする力や, 友達との楽しいやりとりを体験しながら「協同学習」の仕方を身につける。
- ③「コミュニケーション能力 (聴く力・話す力)」を, スキル演習やインタビュー体験を通し身につける。

2) 学習プログラム

- 第1時 「総合的な学習」についてのガイダンス (説明会)
- 第2～3時 「学習テーマ」の設定
「学習テーマ」についての下調べ
- 第4時 事業所訪問の際のインタビュー項目と見学ポイントの作成
- 第5～6時 コミュニケーション・スキルの演習「聴く・話す (1) (2)」
(演習1)「人間コピー」: (6人組) 絵を描く人を1人決める。残りの人は廊下など直接見えないところに貼ってある絵 (○△□を組み合わせた図形) を順番に見に行き, 絵の描き手に言葉で説明し, 同じ絵を描かせるゲーム。なるべく正確にコピーできるように, グループで協力する。
(演習2)「背中合わせ」と「向かい合わせ」: (2人組) 自分の持っている絵 (○△□を組み合わせた図形) を相手に正確に言葉で説明し, なるべく正確に同じ絵を描かせるゲーム。「向かい合わせ」と「背中合わせ」の2通りのやり方で行う。
- <参考文献: 「ピア・サポートではじめる学校づくり」(滝, 2000) >
- 第7時 訪問先の事業所に関する下調べ, 経路・地図の確認
- 第8時 見学後のレポート作成の段取り, および役割分担の打ち合わせ
- 第9～12時 実地調査 (事業所への訪問・見学・インタビュー)
- 第13時 礼状 (はがき) 書き
- 第14～15時 インタビューの回答の整理・見学記録の整理 (1) (2)
- 第16～19時 レポート・壁新聞書き (1) (2) (3) (4)
<発表形式① 壁新聞>
用紙 (模造紙) <内容例 ①テーマ設定の理由, ②テーマについて自分たちで調べてわかったこと, ③訪問先でのインタビューと回答の内容, ④訪問先で見学し新たにわかったこと, ⑤地域調査を終えた感想, ⑥地域調査をしたことで, 新しくわいてきた疑問や関心事について。>
<発表形式② レポート>
用紙 (A4) <内容は, 壁新聞と同じ>
- 第20時 口頭による調査発表会 (各クラスで実施)

<「実地調査」で訪問した事業所の一覧>

大田区役所 (本庁舎)・大田図書館・大田区民プラザ・大田区郷土博物館・田園調布保育園・多摩堤保育園・松山幼稚園・千鳥幼稚園・鶴ノ木幼稚園・上池台障害者福祉会館・養護老人ホーム池上・特養老人ホームたまがわ・調布清掃事務所・昭和大学病院・木村病院・田園調布警察署・田園調布消防署・雪谷税務署・千鳥郵便局・全日空教育訓練センター (地上職員用)・全日空教育訓練センター (客室乗務員用)・東京電力大田支社・大田ケーブルネットワーク・ジャスコ御嶽山駅前店・キャノン本社・学習研究社本社・ヤマト運輸久が原営業所・メリーチョコレート本社・コカコーラ・ボトリング大田営業所

表2 「総合的な学習」に対する生徒の自己評価尺度の質問項目一覧、および質問項目別の平均値と標準偏差

質問項目	M	SD
< I 学習課題の設定 >		
1 訪問場所は、班員同士よく話し合って決めた。	3.78	1.07
2 学習テーマは、班員同士よく話し合って決めた。	3.93	0.93
3 訪問場所は、期待していた通りの所だった。	3.69	1.22
4 見学場所にふさわしい、学習テーマだった。	4.02	0.91
< II 課題の追究 >		
5 事前学習では、インターネットを大いに活用した。	2.60	1.63
6 事前学習では、図書館を大いに活用した	3.34	1.31
7 事前学習では、家庭の本・雑誌を大いに活用した。	2.07	1.26
8 事前学習では、学校の先生を大いに活用した。	2.43	1.23
9 十分に、事前学習をした。	3.57	1.07
10 事前学習は、楽しかった。	3.80	1.14
11 事業所で見たかったものを見学できた。	4.11	1.09
12 事業所で聞いたかったことをインタビューできた。	4.31	0.96
13 事業所の訪問は、楽しかった。	4.33	0.99
< III コミュニケーション・スキル演習 >		
14 コミュニケーション・スキル演習に積極的に参加した。	4.26	1.00
15 コミュニケーション・スキル演習は楽しかった。	4.27	1.04
16 「聞くこと」・「話すこと」のむずかしさを感じた。	4.32	1.04
17 札状の書き方をマスターできた。	3.58	1.07
< IV 学習のまとめ >		
18 班員同士が協力し、レポート・壁新聞を作成した。	3.84	1.03
19 自分は、レポート・壁新聞の作成に大いに活躍した。	3.66	1.18
20 レポート・壁新聞の作成は、楽しかった。	3.88	1.21
21 他の班の発表を、興味深く聞くことができた。	3.73	0.96

N = 202

試行授業において、生徒自身の高い自己評価の主な項目は、「学習課題の設定」段階においては、見学場所にふさわしい学習テーマを自分たちで設定できたこと、「課題の追究」段階においては、事業所での見学・インタビューそのものが大変充実し、楽しかったこと、「総合的な学習」を有意義にするために行われた「コミュニケーション・スキル演習」においては、演習のねらいを正しく理解し、楽しく参加できたことであった。

4 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」に関連する要因

「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」に強く関連している要因を探るために、「総合的な学習(20時間)」の試行授業の実践後に行った、次年度に本格的に実施される「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」得点と、今回試行された「総合的な学習」に対する生徒の自己評価に関する質問(21項目)の各

項目得点について、ピアソンの積率相関係数を算出し関連を検討した(表3)。

その結果、生徒の自己評価に関する質問(21項目)の中で、次年度に本格的に実施される「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」得点との間に、やや弱い相関($r > .30$)が見られたのは、「2) 学習テーマは、班員同士よく話し合って決めた(.33)」、「9)十分に、事前学習をした(.31)」、「13)事業所の訪問は楽しかった(.55)」、「14) コミュニケーション・スキル演習に積極的に参加した(.34)」、「15) コミュニケーション・スキル演習は楽しかった(.32)」、「19) 自分は、レポート・壁新聞の作成に大いに活躍した(.33)」、「20) レポート・壁新聞の作成は楽しかった(.51)」、「21) 他の班の発表を、興味深く聞くことができた(.30)」の8項目であった。

そこで、「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」に、とくに強い影響力を持つ要因を明らかにするために、「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機

表3 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」得点と、「総合的な学習」に対する自己評価尺度の各項目得点の相関係数

質問項目	相関係数
< I 学習課題の設定 >	
1 訪問場所は、班員同士よく話し合って決めた。	.29*
2 学習テーマは、班員同士よく話し合って決めた。	.33*
3 訪問場所は、期待していた通りの所だった。	.09
4 見学場所にふさわしい、学習テーマだった。	.21
< II 課題の追究 >	
5 事前学習では、インターネットを大いに活用した。	-.02
6 事前学習では、図書館を大いに活用した	.01
7 事前学習では、家庭の本・雑誌を大いに活用した。	.13
8 事前学習では、学校の先生を大いに活用した。	.07
9 十分に、事前学習をした。	.31*
10 事前学習は、楽しかった。	.24
11 事業所で見なかったものを見学できた。	.18
12 事業所で聞いたかったことをインタビューできた。	.06
13 事業所の訪問は、楽しかった。	.55*
< III コミュニケーション・スキル演習 >	
14 コミュニケーション・スキル演習に積極的に参加した。	.34*
15 コミュニケーション・スキル演習は楽しかった。	.32*
16 「聞くこと」・「話すこと」のむずかしさを感じた。	.07
17 礼状の書き方をマスターできた。	.08
< IV 学習のまとめ >	
18 班員同士が協力し、レポート・壁新聞を作成した。	.18
19 自分は、レポート・壁新聞の作成に大いに活躍した。	.33*
20 レポート・壁新聞の作成は、楽しかった。	.51*
21 他の班の発表を、興味深く聞くことができた。	.30*

N = 202 * p < .05

得点」を従属変数に、また、「学習動機」との間にやや弱い相関 ($r > .30$) が見られた 8 項目の「各項目得点」を説明変数として、重回帰分析(強制投入法)を行った(表4)。その結果、重回帰式は0.1%水準で有意となった ($F(8, 189) = 11.3, p < .001, R^2 = .32$)。標準偏回帰係数については、「13」事業所の訪問は楽しかった」が (.35)、及び「20」レポート・壁新聞の作成は楽しかった」が (.26) であり、「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」に対して、正の影響があることが示された。

考 察

本研究では、中学生の「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」および、その関連要因について検討した。その結果、「課題の追究」段階では、「実地調査」や「体験学習」そのものの楽しさが、また「学習のまとめ」段階では、「作品作り」の楽しさが、「総合的な

学習」に対する生徒の「学習動機」と大きく関連していることが示唆された。

そこで、中学生の「総合的な学習」における教師の指導・援助に関しては、次の点を考慮することが望まれる。つまり、「見学・調査」という学習方法は、知識と経験の統合には欠かせないものであり、「総合的な学習」においては、きわめて重要な学習方法であるといえる。これらの方法を用いることによって、知識の経験的な意味を獲得したり、知識の妥当性を吟味したりすることが可能となるからである。

しかし、「経験的意味の獲得」や「知識の妥当性を吟味する機会」は、何も「見学・調査」という学習方法だけに限らない。本研究の結果では、総合的な学習に対する生徒の「学習動機」と大きな関連が見られたものに、「学習のまとめ」段階での「作品作り」の楽しさがあつた。課題解決的な学習のまとめの段階で、「発表・討論」などの学習方法を取り入れることにより、他者から様々な意見をフィードバックされる機会

表4 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」得点を従属変数にし、「総合的な学習」に対する自己評価尺度の質問項目（2. 9. 13. 14. 15. 19. 20. 21）を説明変数にした重回帰分析の結果

説明変数	偏回帰係数
< I 学習課題の設定 >	
2) 学習テーマは、班員同士よく話し合っ決めて	.06
< II 課題の追究 >	
9) 十分に、事前学習をした	.08
13) 事業所の訪問は、楽しかった	.35***
< III コミュニケーション・スキル演習 >	
14) コミュニケーション・スキル演習に積極的に参加した	.04
15) コミュニケーション・スキル演習は楽しかった	-.06
< IV 学習のまとめ >	
19) 自分は、レポート・壁新聞の作成に大いに活躍した。	.01
20) レポート・壁新聞の作成は、楽しかった	.26**
21) 他の班の発表を、興味深く聞くことができた	-.04
R^2	.32

$N = 202$

** $p < .01$

*** $p < .001$

を得ることができ、「知識の妥当性の吟味」が可能となる。このことから、教師が「総合的な学習」の「まとめの段階」において、児童生徒の学習成果を様々な表現方法を用いて発表する機会を意図的に設定することは、きわめて重要と考える。

本研究では、学習のまとめの表現方法として、「レポート」や「壁新聞」という方法を用いた。しかし、これら以外の表現方法として、パソコンの「プレゼンテーションソフトの活用」や「詩・曲の創作」、また身体表現である「劇やダンス」など、多種多様な表現方法が考えられる。「総合的な学習」を通して、多種多様な表現のトレーニングが積み重ねられることによって、生徒は、自分自身の良さを最も発揮できる表現方法を知り、生徒自身の「自己評価」を高める可能性もあると考える。

「総合的な学習」の実践への提言

1 授業プログラム作成のためのアセスメント

学校心理学においては、児童生徒の「学習動機」を促進することは、心理教育的援助サービスの重要な課題の一つと考えられている。「総合的な学習」は、中学生のすべてが参加する学習であり、それに対する教師の指導・援助は、学校心理学における1次的援助サービスに当たる（石隈，1999）。

学校心理学の心理教育的アセスメントとは、「子ど

もが、課題に取り組む上で出会う問題や、危機の状況についての情報の収集と分析を通して、心理教育的援助サービスの方針や、計画を立てるための資料を提供するプロセス」（石隈，1999）を意味している。

「総合的な学習」のアセスメントの目的は、対象となる学校の児童生徒にとってどのようなスキルの開発が必要か、予防すべき問題状況は何かなどの「学習課題」や「教育課題」を把握し、次年度の学習プログラム作成のための資料を提供することである。

本研究では、本格的に実施される「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」の向上を意図して、試行プログラム（20時間）を作成し実践した。試行プログラムの授業実践の結果、「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」得点の向上が見られた。この結果は、先に行われた「総合的な学習」の体験が充実して楽しかった場合、後に行われる「総合的な学習」に対する「学習動機」が向上する可能性を示唆している。これらの結果から、教師は「総合的な学習」のプログラムを新たに作成する場合、すでに実践した授業について、ていねいにアセスメントを行うことが、きわめて重要であると考えられる。

2 質の高い「体験学習」の場の開拓

学校心理学においては、児童生徒に対する指導・援助サービスの提供者として、4種類のヘルパー（専門的ヘルパー、複合的ヘルパー、役割的ヘルパー、ボラ

ンティアヘルパー)の考え方があ。そして、これらのヘルパーが有機的に連携し合うことで、教育効果を高めることができると考えられている(石隈, 1999)。「総合的な学習」においては、「複合的ヘルパー」は教師であり、「役割的ヘルパー」は保護者、「ボランティアヘルパー」は地域の人々と位置付けることができる。

「総合的な学習」をより充実させるためには、「複合的ヘルパー」の教師の役割がとくに重要であり、学校外の様々なネットワークを拡大し活用しながら、より質の高い「体験学習」の場を開拓することが望まれる。「総合的な学習」においては、「役割的ヘルパー」である保護者や「ボランティアヘルパー」である地域住民の協力が不可欠であり、相互の連携を深めていくことが重要だと考える。

本研究の限界と今後の課題

本研究では、「総合的な学習」の試行プログラムの授業実践や質問紙調査の対象者が、特定の学校の生徒に限られていたため、本研究の結果をそのまま現在の中学生の傾向と一般化することはできない。また、「総合的な学習」に対する「学習動機」尺度の妥当性についても十分な検討が加えられていない。今後は、「総合的な学習」に対する「学習動機」尺度の妥当性を検討し、関連要因についても、さらに研究を進める必要がある。加えて、「総合的な学習」の「学習動機」と「教科学習および学校生活に対する意欲」との関連についても研究を行う必要がある。

次に、「実地調査」や「体験学習」をふくむ「総合的な学習」の充実のためには、生徒の「コミュニケーション・スキル」の育成が必要であろう。また、これまでの教科学習の場合には、あまり問題とならなかった「集団活動スキル」の欠如についても、時には新たな学習上の問題点となる可能性がある(飯田・石隈, 2002)。学校心理学では、全ての児童生徒が学習課題に取り組む上で、必要とする基礎的なスキルの開発(1次的援助サービス)を重視している(石隈, 1999)。今後、「総合的な学習」に対する「学習動機」と「コミュニケーション・スキル」および「集団活動スキル」との関連についての研究も必要である。

最後に、本研究では、学校心理学の枠組みを用いて、1次的援助サービスの観点で、「総合的な学習」にお

ける教師の指導・援助サービスについて検討してきた。しかし、本研究で提示した教師の指導・援助サービスでは解決できないような著しく「学習動機」の低い生徒は、どの学校にも少なからずいると考えられる。そこで、今後は「総合的な学習」に対して、著しく「学習動機」が低い生徒に対する2次的援助サービスについても、研究を進める必要がある。

引用文献

- 浅野志津子 2002 学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程 - 放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から - 教育心理学研究, 50, 141-151 .
- デューイ, J. 松野安男(訳) 1975 民主主義と教育 岩波書店 (Dewey, J. 1916 Democracy and education: An introduction to the philosophy of education. In P. Monroe (Ed.), 1955 Text-book series in education. New York: The Macmillan Company.)
- 市川伸一編 1993 学習を支える認知カウンセリング ブレーン出版
- 飯田順子・石隈利紀 2002 中学生の学校生活スキルに関する研究 - 学校生活スキル尺度(中学生版)の開発 - 教育心理学研究, 50, 225-236 .
- 石隈利紀 1999 学校心理学 - 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス - 誠信書房
- 鹿毛雅治 1996 内発的動機づけと教育評価 風間書房
- 倉光 修 2000 動機づけの臨床心理学 - 心理療法とオーダーメイド・テストの実践を通して - 日本評論社
- 文部省 1999 特色ある教育活動の展開のための実践事例集 - 「総合的な学習の時間」の学習活動の展開 - 中学校・高等学校編
- 桜井茂男 1999 学習意欲の心理学 - 自ら学ぶ子どもを育てる - 誠信書房
- 滝 充 1999 「学級崩壊」とその対応 教育と医学, 47(10), 48-54. 慶應義塾大学出版会
- 滝 充 2000 ピアサポートではじめる学校づくり 中学校編 - 「総合的な学習の時間」を活かす生

徒指導カリキュラム - 金子書房

山田和夫 1985 文化なき家族の病理 - 教育をゆがませる中流意識 - 大和出版

山口豊一 2001 小学校の授業に関する学校心理学的研究 - 授業における教師の4種類のサポートを中心として - 学校心理学研究, 1, 3-10.

Teacher Instruction and Support in Integrated Study for Junior High School Students: With a Focus on Motivation for Learning

Shuichi TAMURA

The purpose of this study was to examine the effects of Integrated Study experience on motivation for learning of junior high school students. A questionnaire was administered to 202 junior high

school students before and after a trial program of Integrated Study. The scores of motivation for learning were higher after experiencing the Integrated Study program than those prior to the program. Moreover, motivation for learning was found to correlate highly with the enjoyment in "Field survey," "Learning by experiencing," and "Work-making." The author discussed how teachers should provide instruction and support to students in Integrated Study programs.

Key words: Integrated Study, teachers, guidance and support services, motivation for learning, school psychology

(2003年2月11日受稿; 2004年6月4日受理)

付録 「総合的な学習」に対する生徒の「学習動機」に関する質問紙

< 「総合的な学習」の授業実践前に実施 >

問) これから今年度の「総合的な学習」が始まります。次の1~5の中で、今のあなたの気持ちに、一番あてはまるものに、○をつけてください。

- 5) 大いに学びたい
- 4) かなり学びたい
- 3) どちらでもない
- 2) あまり学びたくない
- 1) まったく学びたくない

< 「総合的な学習」の授業実践後に実施 >

問) 来年度から本格的に「総合的な学習」が実施されます。今年度の「総合的な学習」を終えた今、来年度の「総合的な学習」について、次の1~5の中で、今のあなたの気持ちに、一番あてはまるものに、○をつけてください。

- 5) 大いに学びたい
- 4) かなり学びたい
- 3) どちらでもない
- 2) あまり学びたくない
- 1) まったく学びたくない